

協議会設立5年目の現状に思う

本日は、構成員の皆様方には、何かと御多用中のところ、当協議会総会に御出席を賜り、誠に有り難う御座います。

又、日頃より当協議会へのご理解とご協力をいただいている事に対しまして、あらためて厚く御礼申し上げる次第です。

さて、平成21年5月に当活性化協議会が設立して今年で5年目迎えました。その間、十和田市中心市街地活性化基本計画が平成22年3月に国の認定を受け、27年3月までの概ね5年の実施期間で、官民ともに、中心市街地活性化事業を集中的に取り組んできております。また、今年2月の市ご当局からの報告によれば、基本計画に掲載された実質31事業のうち、27事業が既に実施され、うち8事業が完了し、4事業が未着手。という状況にあるようです。正確にはその後もこの数字は動いているものと思いますが、一昨年にアートステーショントワダが開業し、中心街に新たな賑わいが生まれつつある中で、昨年、(仮称)稲生プラザイースト整備事業や(仮称)駒っこモール整備事業が、残念ながら現状では計画が成り立たない状況に陥ってしまいました。

一方、民間の事業としてはどうてつ跡地に中心市街地北地区整備事業が、市の事業としては(仮称)市民交流プラザ整備事業と(仮称)教育プラザ整備事業が基本計画に追加され、現在、順調に進められているようであります。

さらに昨年度は、アートステーショントワダの開業効果が、基本計画の目標指標の一つでもあります「街なか歩行者通行量」において、直接数字で現れていたようです。しかしながら、それが一過性のものとならないためにも、今後の各計画が順調に進むことを切に願うものであります。

また、なかなか思うような結果が出ないもうひとつの目標指標であります「街なか居住人口」については、その対処施策のひとつとして、市が基本計画に「中心市街地への住宅建設のための補助制度」などを加えたようです。今日はそれらを含め市ご当局から、基本計画の変更事項等のご報告もあるようでございます。

日本経済は今、街角景気にアベノミクス効果が徐々に浸透してきていると新聞紙上を賑わせているようですが、地方経済、こと十和田市においては、その効果もどこに現れているのか、あまり目立つものも見受けられないような気がいたします。そんな現実の中でも、十和田市の中心市街地活性化は、予定通りではないものの、引き続き基本計画の目標達成に向けて事業を進めていかなければならないものと思っております。

本日の総会は、この基本計画の現況について、皆様にご理解いただく場となっております。委員並びにオブザーバーの皆様には、毎回、ご足労をお掛けいたしますが、



今後も基本計画の進捗状況につきまして、できる限りの情報提供を心がけて参りたいと考えておりますので、今一度、皆様にご協力をお願い申し上げます。本日のご挨拶に代えさせていただきます。本日はご出席をいただき誠に有り難うございます。